

参考資料1

「知床エコツーリズム戦略」について

平成24年7月
知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議

目次

1. エコツーリズム戦略の活用方法
 - 1-1. 知床におけるこれまでの観光利用の推進のあり方
 - 1-2. エコツーリズム戦略の活用による議論の体制
 - 1-3. 具体的な提案や議論のステップ
 - 1-4. 今年度のスケジュール
2. エコツーリズム戦略の内容
 - 2-1. 戦略の目的
 - 2-2. 基本方針
 - 2-3. 将来目標
 - 2-4. 具体的方策
3. エコツーリズム戦略の作成経緯
 - 3-1. エコツー戦略の背景
 - 3-2. 適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制
 - 3-3. エコツー戦略策定までの議論の経緯

1. エコツーリズム戦略の活用方法

1. エコツーリズム戦略の活用方法

知床におけるこれまでの観光利用の推進のあり方

～今までのあり方～

立案者：行政機関

↓ 原案作成

↓ 専門家の意見収集・一般市民の意見募集

↓ 修正

↓ 策定

- ・知床岬地区利用規制指導に関する申し合わせ(S59)
- ・知床国立公園適正利用基本構想(H14)
- ・知床半島先端部地区利用適正化基本計画(H16)
- ・知床半島中央部地区利用適正化基本計画(H17)
- ・知床エコツーリズムガイドライン(H19)
- ・知床エコツーリズム推進実施計画(H19)
- ・知床半島先端部地区利用の心得(H20)
- ・知床半島中央部地区利用の心得(H21)

行政の主導により、観光利用における基本計画や申し合わせが策定され、適正な利用のための枠組みやルールが作成されてきました。

1. エコツーリズム戦略の活用方法

エコツーリズム戦略の活用による議論の体制

～今後の体制～

新しいツアーや新しいルール、取り決め

↓ 提案

↓ 議論

↓ 承認

新しいルールの遵守・エコツアーの推進

提案する人

地域住民・観光業者・ガイド・漁業者・研究者・旅行者・知床ファン・行政・ほか・わたし・・・など
誰でも提案OK!

議論・承認する人

【エコツアー検討会議】
地元の観光業・自然保護・漁業、行政、専門家

地域が主体となったルールづくりや話し合いができるようになりました。

1. エコツーリズム戦略の活用方法

例えば...知床岬への上陸

～今までのあり方～

知床岬に船でお客さんを連れて行きたい!

打診

行政機関

「利用規制指導に関する申し合わせ」があるため認められません。

※港湾の使用許可の基準を行政のみで調整。

～今後の体制～

知床岬に船でお客さんを連れて行きたい!

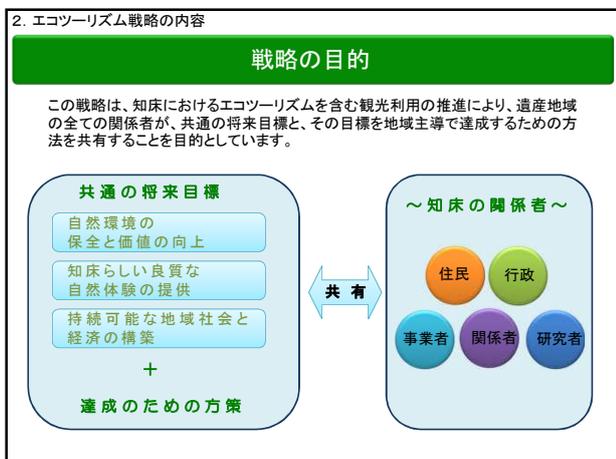
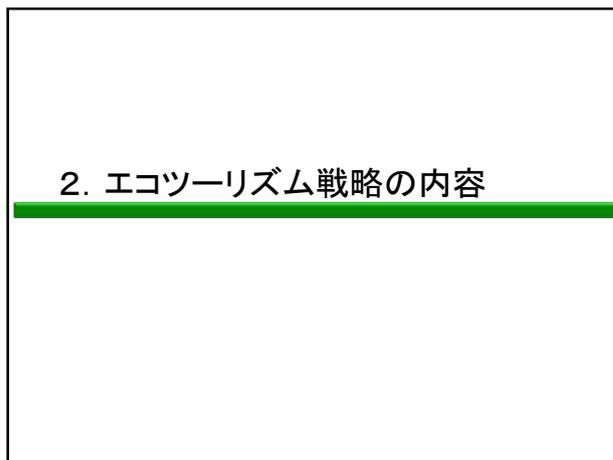
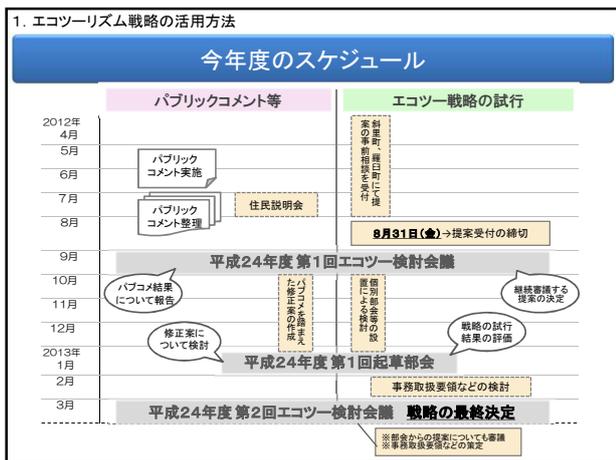
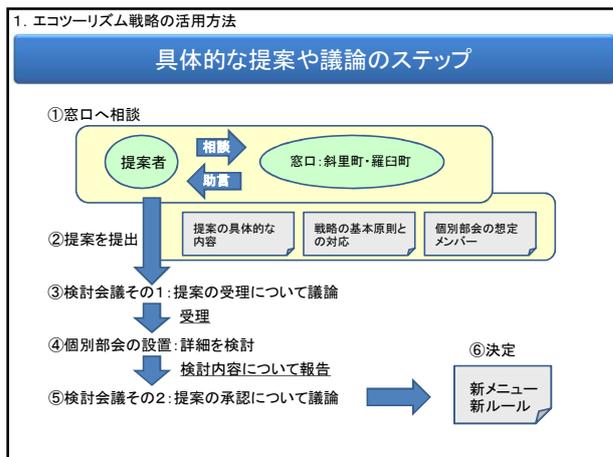
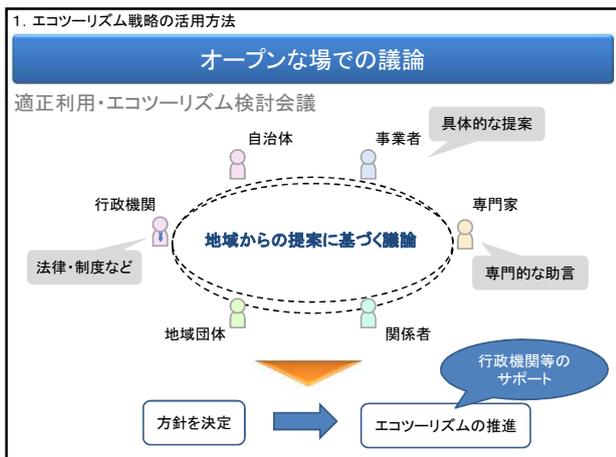
提案

適正利用・エコツーリズム検討会議

オープンな場での議論

↓

議論により方針を決定



2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点① 地域主体・自律的・持続的であること

地域関係者が主体的に取り組み、地域主導の観光利用の推進が望めます。関係行政機関は相互に連携を図り、統一的な支援を行います。エコツーリズムの推進が地域社会と経済に貢献することが望めます。

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点② 共有・協働・連携・ネットワーク

検討会議やボランティアネットワーク等を活用した多様な主体との連携と協働が必要です。特にガイドの育成やガイド事業者との連携・協働は重要です。また、観光船やシーカヤックとの連携も求められます。

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点③ 自然環境を保全すること

観光利用は自然生態系のもつ環境収容力の範囲内とするため、個別地区の特性を考慮した具体的方策を検討します。湿原や高山帯、希少野生生物等に関しては慎重に検討すべきです。また、利用の制限や利用の分散、多様化も図ります。

個別地区の自然生態系の脆弱性、観光客数等の利用状況

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点④ 自然生態系に関する理解を促進すること

ガイド利用等により知床の自然価値の価値や生態系の仕組み、野生生物の生態等を啓発することが重要です。そのことによりルールを学ぶとともに、自然環境保全への意識向上に繋がります。

○ 自然と接する際のルールの習得
○ 自然環境保全に対する意識の向上 など

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点⑤ 地域の文化・歴史的背景を踏まえること

自然に向かい合い培ってきた文化的・歴史的背景に十分留意する必要があります。特に漁業活動への適切な配慮が求められます。

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点⑥ 自己責任の原則と管理責任の分担

自己責任の原則が適正な観光利用につながり、多様な観光形態を可能にしていることから、積極的に啓発していく必要があります。なお、ツアー等に関しては情報を事前に伝え、安全確保のための備えを行う必要があります。一方、観光利用を推進する者が管理責任を分かち合うことも必要です。

エコツアー等の推進の場合
参加者の安全確保のために...
●安全、リスクに関する情報の提供
●事前の安全確保の備え

施設、利用地に管理が求められる場合
利用を推進する者での責任の分かち合い
効果的な管理や利用機会の拡大
※原則、責任は管理者

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点⑦ 知床のブランド価値を高めるという視点を持つこと

全国に知床ファンがあり、世界自然遺産というブランドに魅力を感じる観光客も多いため、ブランド価値を高めるような観光利用により、経済と環境の好循環につなげることができます。また、全体のブランド価値の向上のため、個別の価値も高めることが求められます。

観光利用 → 経済と環境の好循環 → ブランド価値の向上 → 個別のブランド価値の向上 → 観光利用

利用者の増加 → 経済と環境の好循環 → 収益等を地域に還元 → 経済と環境の好循環

2. エコツーリズム戦略の内容

必要な視点⑧ 順応的管理型であること

関係行政機関や観光利用を推進する者が自然環境への影響や観光客の満足度等をモニタリングし、その結果に応じて利用方法や管理手法等の見直しを行います。

観光利用の推進 → モニタリング → 検討会議での評価 → 利用方法の見直し → 観光利用の推進

2. エコツーリズム戦略の内容

将来目標

- ① 自然環境の保全・価値の向上
 - 自然生態系の持つ環境収容力の範囲内での利用
 - エコツアーの増加
- ② 知床らしい良質な自然体験の提供
 - 満足度向上とリピーターの増加
 - 知床特有エコツアーの種類・数の充実
- ③ 持続可能な地域社会・経済の構築
 - 地域主導エコツアーの増加
 - 地域内からのサービス調達
 - 利益還元型エコツアー数の増加

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (1) 利用のコントロール

自然環境の保全、観光客の安全確保、原始性の保持、付加価値の向上等の目的に応じて、法的な担保に基づく利用システムの設定やルールによる利用のコントロールを行います。

自然環境の保全
観光客の安全確保
原始性の保持
付加価値の向上

利用システムの設定やルールによる利用のコントロール

人数やアクセスの制限
少数利用者への誘導
事前申請、届出、ガイド同伴義務
特定利用者の誘導
利用エリア、利用期間の限定
シャトルバスシステムの誘導 等

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (2) 守るべきルールを設定と指導

自然環境の保全、観光客の安全確保、地域の文化・生活への配慮等の目的に応じて、観光客が守るべきルール及びツアー企画者やガイド等の観光利用を推進するものが守るべきルールを設定します。特に脆弱な自然環境の利用に関しては、地域合意を基本とした専門的な知見に基づくルールを設定が必要であると考えています。

自然環境保全
安全確保
地域の文化や生活への配慮

目的に応じた守るべきルールの設定

観光客
事業者

～ルール遵守のために～
行政機関による巡視・指導体制の確立
ガイド事業者等の協力

公開・啓発 → ルールの設定 → ルール遵守 → 自然体験 (良質な)

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (3) 情報の発信

地域主体のエコツアーの増加や守るべきルールの周知等を目的として観光客やメディアに対して情報の発信を行います。情報の発信にあたっては、知床のブランド価値の向上につながるような留意が必要です。

エコツアー 守るべきルール

陸域
斜里町
海域
羅臼町
情報の共有

多言語での情報発信

観光客
メディア

自然生態系への配慮
ロゴやイメージの統一

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (4) ガイドの育成とガイド利用の推奨

ガイドの育成・推奨により、観光客への知床らしい良質な自然体験の提供、地域文化・産業に関する情報発信といった観光客へのサービスが向上するだけでなく、その他の多面的効果も期待できます。

ガイド利用による良質な自然体験の提供

多面的効果

- ⇒ 地域文化・産業に関する情報発信
- ⇒ 野生生物との接し方、踏み荒らしの指導
- ⇒ 事故防止、パトロール効果
- ⇒ 情報収集による遺産地域の管理

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (5) 文化的資産等の活用

知床には先人達が生業を営んできた歴史があります。アイヌ文化、近代の鉱山開発、戦後開拓等の遺構や旧家屋等が残されており、戦後開拓や入植等については多くの史料が保存されています。羅臼側では、半島先端部にいたるまで多くの住民がコブ漁のため季節移住していた歴史があります。観光利用の多様化と分散のため、これらの文化的資産を活用していきます。

アイヌ文化 近代の鉱山開発 戦後開拓の遺構・旧家屋 漁業の歴史

保全に留意した資産の活用

観光利用の多様化、分散

- 農業、漁業等の産業と連携したエコツアー
- 観光客によるボランティア活動実施 など

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (6) 利益の還元

自然環境の保全、ブランド価値の向上等を目的として、観光利用によって得られた利益を地域の自然や社会に還元する仕組みを検討します。直接的な利益の還元他、知識や情報の伝達、情報発信の推進等による還元も検討します。

観光利用によって得られた利益・知識・情報

還元

事業者など

地域の自然・社会

利用

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (7) 施設整備

適正利用を念頭に管理水準・整備水準を検討し、必要な施設整備を行います。整備に際しては年次計画を定め、計画的に実施します。また、整備計画に際しては、あわせて継続可能な管理体制の構築も行います。

管理水準・整備水準の検討

計画的な施設整備
継続可能な管理体制の構築

- 安全対策
- 管理活動実施
- 情報周知
- 利用分散
- 自然環境の保全・再生
- 交通アクセスの適正化
- 未利用施設の再生・保全・活用

2. エコツーリズム戦略の内容

具体的方策 (8) モニタリング

順応的な管理を行うため、関係行政機関や観光利用を推進する者は観光客による踏み荒らし等の自然環境への影響、観光客の満足度や感想、観光客のニーズや行動の変化等をモニタリングします。調査方法のみならず検証の方法、体制についても検討します。

行政機関 観光事業者など

観光客による自然環境への影響

観光客の満足度や感想

観光客のニーズや行動の変化など

モニタリング

調査方法 検証方法 体制

3. エコツーリズム戦略の作成経緯

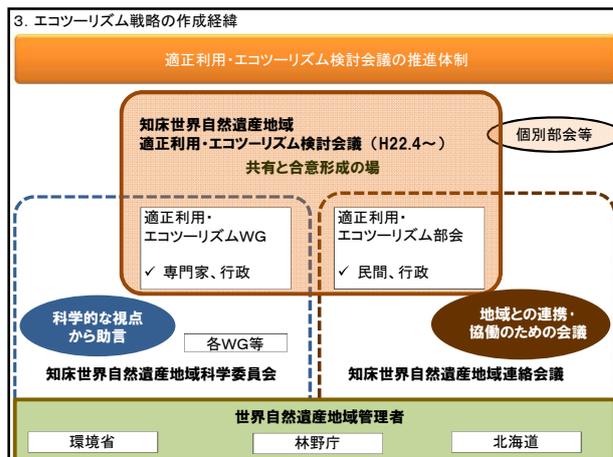
3. エコツーリズム戦略の作成経緯

エコツアー戦略の背景

①IUCNからの勧告
 平成20年2月のユネスコと国際自然保護連合による現地調査を踏まえ、知床世界自然遺産の保全状況に関する17の勧告がとりまとめられ、当該勧告において遺産地域に関する統合的なエコツーリズム戦略を早急に策定することが求められました。

勧告14
 「遺産地域に関する、総合的なエコツーリズム戦略をできる限り早急に策定すること。この戦略は、遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とすべき」

②エコツアー検討会議における討議
 地域関係団体、有識者、関係行政機関からなる「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」において平成22年度より、知床エコツーリズム戦略策定に向けた検討を開始しました。



3. エコツーリズム戦略の作成経緯

エコツアー戦略策定までの議論の経緯

平成22年度		平成23年度	
2010年 6月	第1回適正利用・エコツーリズム検討会議 ○ 検討会議の立ち上げ ○ エコツアー戦略策定に向けたスケジュールの確認	2011年 6月	第1回適正利用・エコツーリズム検討会議 ○ エコツアー戦略(案)作成の工程確認 ○ 文案書の募集について
11月	第2回適正利用・エコツーリズム検討会議 ○ 基本原則、対象・対象範囲に関する討議 ○ エコツアー戦略骨子(案)の作成工程確認	10月	第1回エコツアー戦略紀事部会 ○ 募集した文案書(130件)の検別
12月	第1回エコツアー戦略紀事部会 ○ エコツアー戦略骨子(案)の項目の検討	12月	第2回エコツアー戦略紀事部会 ○ エコツアー戦略(案案)について
2011年 1月	エコツアー戦略作業部会 ○ エコツアー戦略骨子(案)の内容の検討	2011年 3月	第2回適正利用・エコツーリズム検討会議 ○ エコツアー戦略(案)に合意 ○ エコツアー戦略(案)の施行について
2月	第2回エコツアー戦略紀事部会 ○ エコツアー戦略骨子(案)の内容の詳細検討	平成24年度	
3月	第3回適正利用・エコツーリズム検討会議 ○ エコツアー戦略骨子(案)に合意	5月~6月	パブリックコメント
		7月	住民説明会